

平成 20 年度化学物質の環境リスクに関する国際シンポジウム開催報告

2008 年 12 月 14 日（日）・15 日（月）「平成 20 年度化学物質の環境リスクに関する国際シンポジウム」を東京都江東区において開催した。

14 日（日）の公開シンポジウムでは、斉藤鉄夫環境大臣からの開会挨拶に続き、石原慎太郎東京都知事からの協力者代表挨拶（代読）及び加藤修一参議院議員からの来賓挨拶を頂戴した。



斉藤鉄夫環境大臣



桜山豊夫東京都福祉保健局技監



加藤修一参議院議員

公開シンポジウム

「～未来に^{はばた}く子どもたちのために～」

映像

総合司会に京都大学の内山巖雄氏を迎え、「未来に翔く子どもたちのために - 子どもの環境保健 - 」と題し、子どもの健康問題の増加や小児環境保健の今後の取組みについて、ビデオを用いて紹介した。

【子どもの健康問題の増加】

近年、子どもたちの間でぜん息などのアレルギー疾患、先天異常、小児肥満、自閉症や学習困難などの心身の異常が年々増加していることが報告されている。その原因は、遺伝的要因、生活習慣だけでは説明できず、化学物質等の環境要因が疑われている。

【小児環境保健の今後の取組み】

1997 年、マイアミで開催された G 8 環境大臣会合において、子どもの環境保健に対して最優先に取り組む必要があることが宣言された。これを受けて、アメリカ、ノルウェー、デンマーク等では、小児と環境をテーマにした大規模な国家プロジェクトが進められ、日本においても、子どもの健康と環境に関する全国調査の準備が進められている。

基調講演

「子どもと環境～一般市民の立場から～」を主婦である山崎理華氏、「子どもを取り巻く環境と健康」を国立成育医療センター研究所の緒方勤氏、「オランダの現状と取組～これまでの調査で分かったことと今後

の課題～」をオランダエラスムスメディカルセンターの Albert Hofman 氏、「米国の現状と取組～小児環境保健法制定からナショナルチルドレンスタディー（NCS）まで～」を米国ユタ大学の Edward B. Clark 氏、「日本における取組～小児環境保健の現状と課題～」を東北大学の佐藤洋氏より、それぞれ御講演いただいた。



内山 巖雄氏



子どもと環境
山崎 理華氏



子どもを取り巻く環境と健康
緒方 勤氏



オランダの現状と取組
Albert Hofman 氏



米国の現状と取組
Edward B. Clark 氏



日本における取組
佐藤 洋氏

専門家による公開セッション

15日(月)は、ノルウェー、韓国、アメリカといった国外からも幅広く研究者や行政関係者等を招き、公開セッションを行った。

セッション1:

「化学物質等の環境因子とアレルギーに関する研究の最前線について」

セッションコーディネーター：国立成育医療センター研究所 齋藤 博久氏

環境が喘息病態・発症に及ぼす短期的及び長期的影響
～香港中文大学 Gary WK Wong 氏～

アレルギー性皮膚疾患と環境因子
～大阪大学大学院 片山 一朗氏～

免疫・アレルギー系の制御機構

～東京大学医科学研究所 岩倉 洋一郎氏～

ダイオキシン受容体の機能と炎症性疾患

～東北大学大学院 本橋 ほづみ氏～

環境化学物質によるアレルギーの修飾

～独立行政法人国立環境研究所 高野 裕久氏～

セッション 2 :

「小児環境保健に関する疫学調査～世界各国で進められる疫学調査～」

セッションコーディネーター：東北大学 佐藤 洋氏

自治医科大学 香山 不二雄氏

米国：ナショナルチルドレンスタディの取組

～米国 ユタ大学 Edward B. Clark 氏～

ノルウェー国内の母子を対象としたコホート調査

～ノルウェー 国立公衆衛生研究所 Wenche Nystad 氏～

疾病の子宮決定要因：ジェネレーション R

～オランダ エラスムスメディカルセンター Albert Hofman 氏～

韓国：小児疫学調査の取組 (MOCEH プロジェクト)

～韓国 梨花女子大学 Eunhee Ha 氏～

環境省「子どもの健康と環境に関する全国調査」実施計画

～産業医科大学 川本 俊弘氏～

WHO の取組：発展途上国における疫学調査の可能性

～世界保健機関 Jenny Pronczuk 氏～

セッション 3 :

「化学物質の内分泌かく乱作用に関する取組と今後の展望について」

セッションコーディネーター：自然科学研究機構 井口 泰泉氏

OECD 及び米国における化学物質の内分泌かく乱作用の試験法開発と今後の展望

～米国 環境保護庁 Leslie W. Touart 氏～

環境省による野生生物を用いた試験のまとめと今後の展望
～独立行政法人国立環境研究所 鑑迫 典久氏～

ヒト・実験動物における化学物質の内分泌かく乱作用に関する最近の話題
～東京大学 遠山 千春氏～

化学物質の内分泌かく乱作用に関するリスクコミュニケーションについて
～環境ジャーナリスト・環境カウンセラー 崎田 裕子氏～

各セッションにおいては、講演者の発表を基に、多様な意見交換がなされた。



セッション1



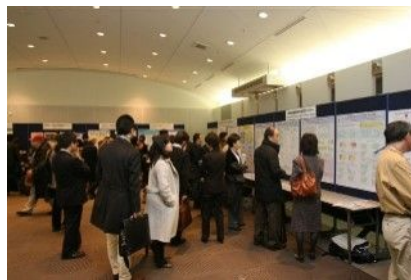
セッション2



セッション3

関連展示

シンポジウム会場では、東京都健康安全研究センター、独立行政法人 国立環境研究所、国立成育医療センター、いであ株式会社、社団法人 環境情報科学センター、財団法人 世界自然保護基金ジャパン、社団法人 日本化学工業会、財団法人 日本食品分析センター、日本内分泌攪乱化学物質学会による映像・パネル展示が行われた。



参加者数

12月14日(日): 約380名

12月15日(月): 約550名

平成 20 年度化学物質の環境リスクに関する
国際シンポジウムにおけるアンケート結果

(1) シンポジウム 1 日目 (基調講演)

シンポジウム 1 日目は 171 通のアンケートを回収した。

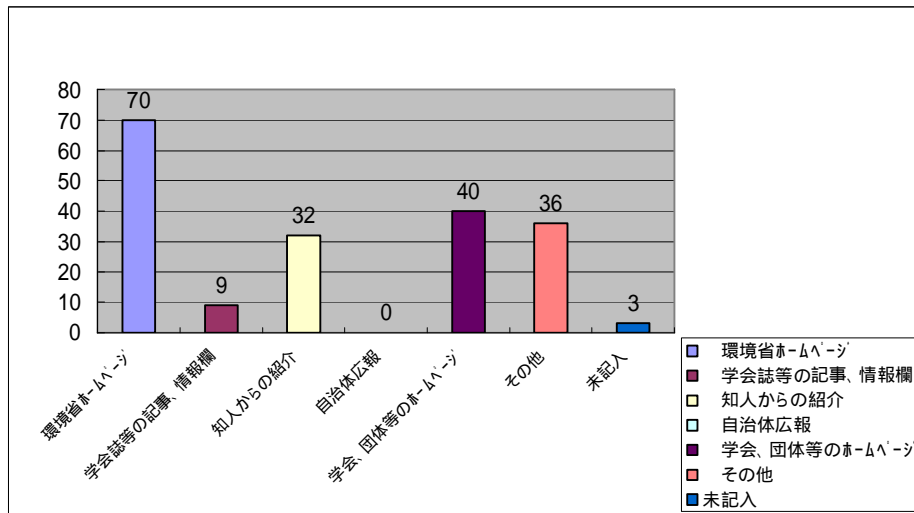
- ・ 主婦の視点での講演がなされたことについて、好意的な意見が多かった。一方で、もっと生活感のある話をして欲しかったという意見もあった。
- ・ 「大変意義深かった」「勉強になった」という意見が多く、興味、理解度とも概ね良い評価をいただいた。
- ・ 小児環境保健の取組について、関係機関（厚生労働省等）ともっと連携してすすめるべきという意見があった。
- ・ 会場の割に参加者が少なく、シンポジウムに関する広報が足りないのではないかという意見があった。また、広報には、もっとマスメディアを活用すべきとの意見があった。

(2) シンポジウム 2 日目 (セッション)

シンポジウム 2 日目は 121 通のアンケートを回収した。

- ・ いずれのセッションも、難易度については「非常に判りやすい」「判りやすい」の割合が昨年に比べて減っている。
- ・ セッション 1 (化学物質等の環境因子とアレルギーに関する研究の最前線について) は、「やや難しい」が 33%あり、難易度が若干高かったことがうかがえる。しかし一方で、最先端の話が聞けて興味深かったとの意見もあった。
- ・ セッション 2 (小児環境保健に関する疫学調査) では、日本の疫学調査について大きな期待を寄せる意見が多く、一層の議論が求められている。
- ・ セッション 3 (化学物質の内分泌かく乱作用に関する取組と今後の展望について) では、試験方法や、リスクコミュニケーションについて、よく分かったという意見がみられた。

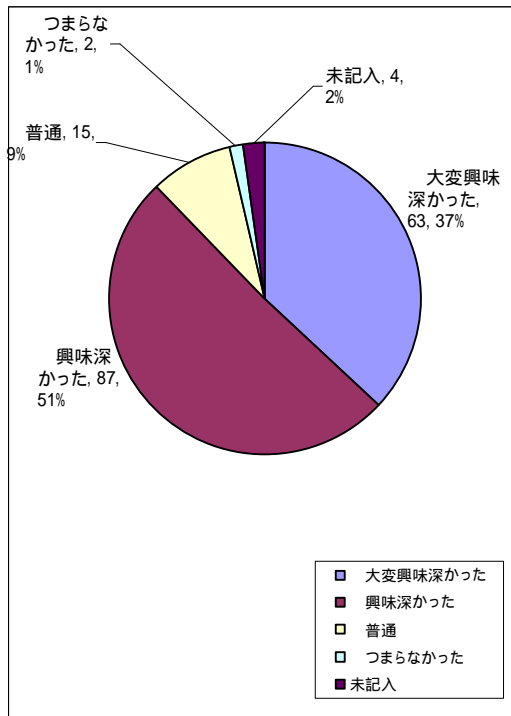
【Q1】シンポジウムを知った媒体(複数回答可)



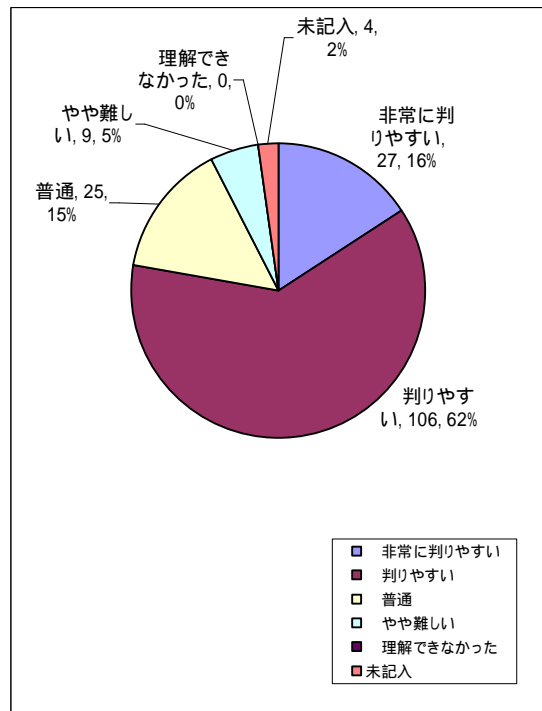
【Q2】14日のプログラムに参加した感想

「基調講演」について

1) 内容

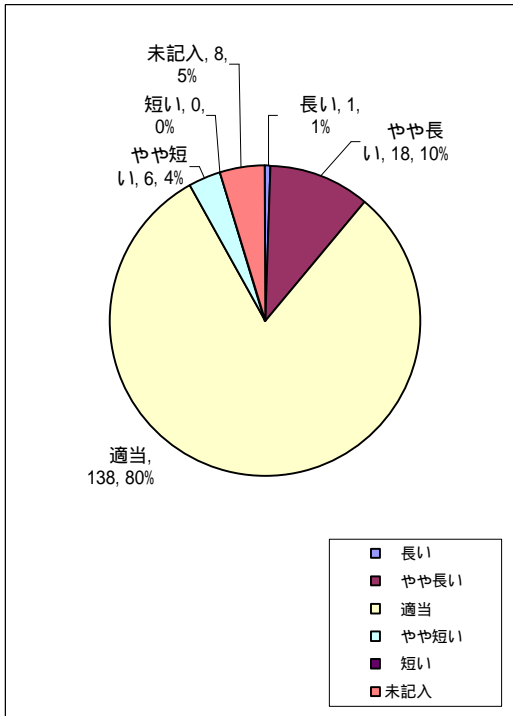


2) 難易度



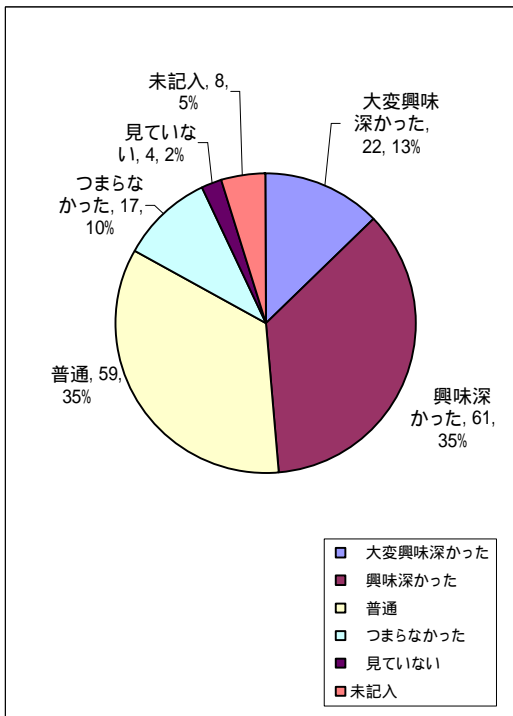
「基調講演について」

3) 1人あたりの講演時間

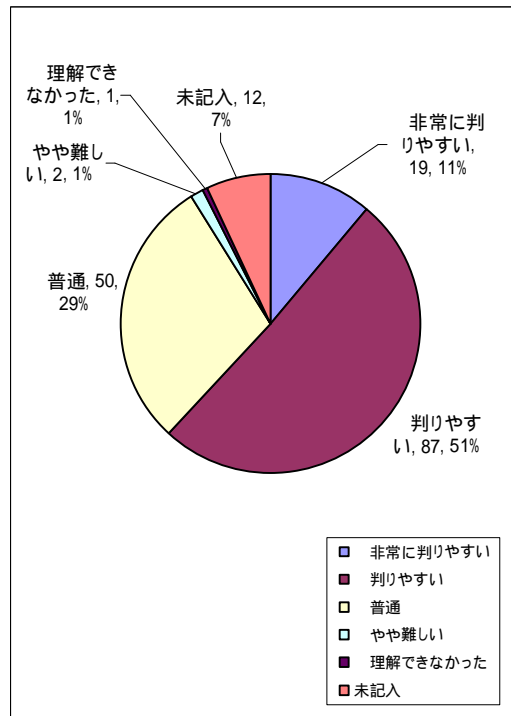


「映像」について

1) 内容

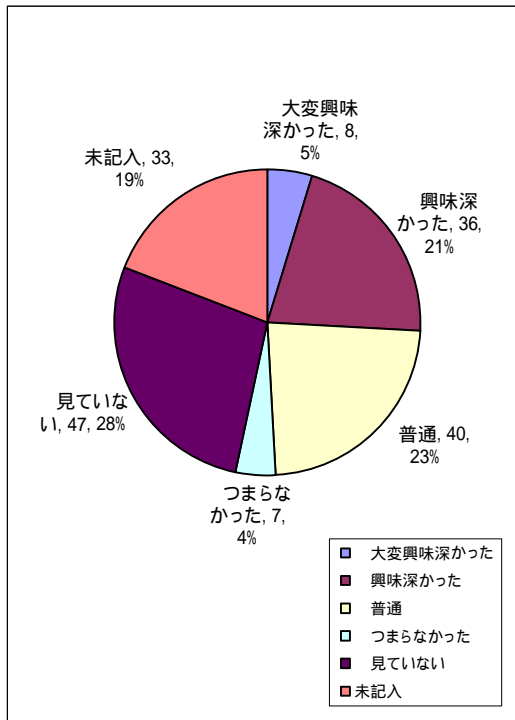


2) 難易度

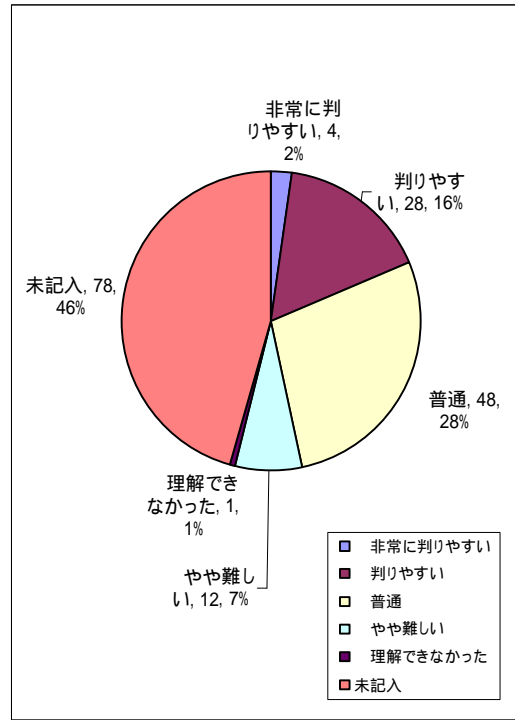


「パネル展示」について

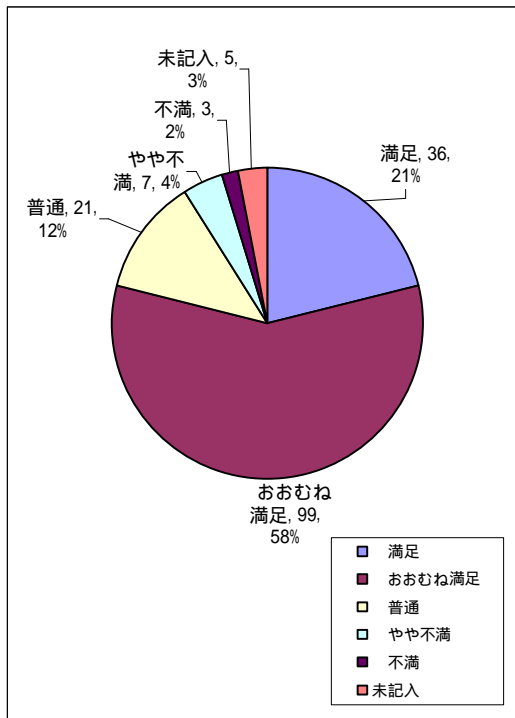
1) 内容



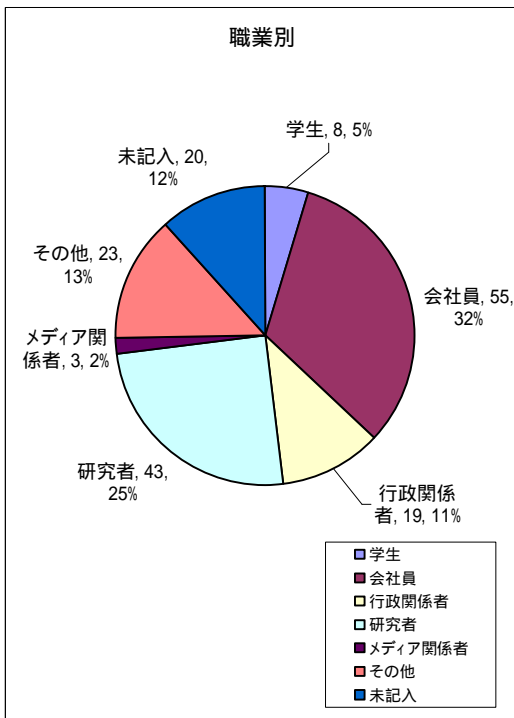
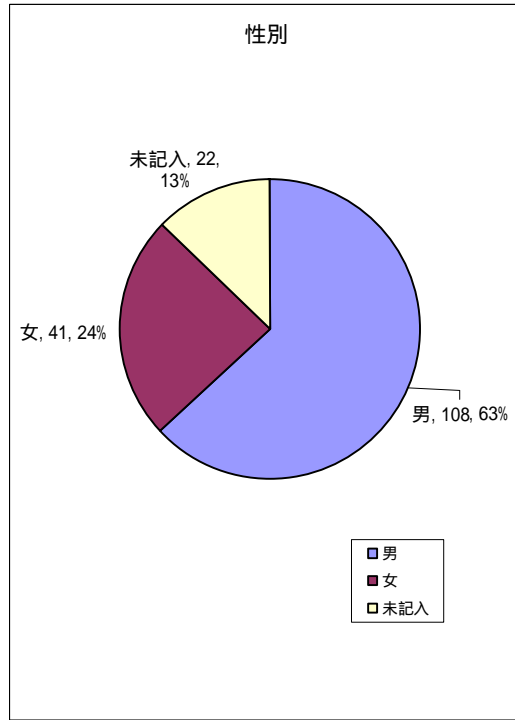
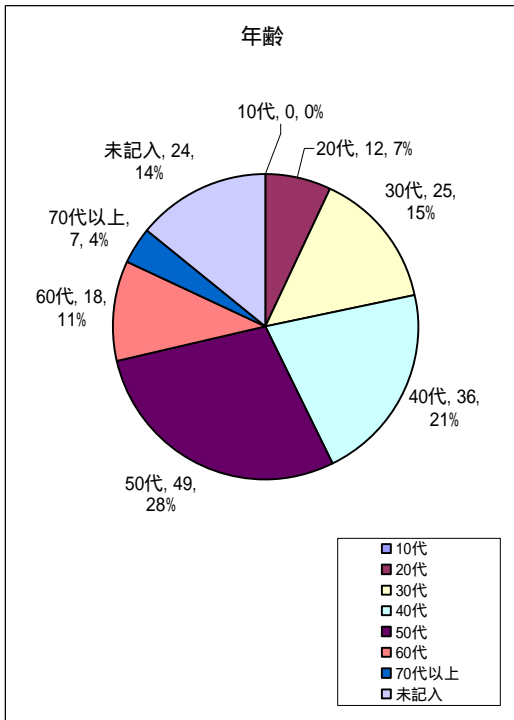
2) 難易度



シンポジウムに参加して満足されましたか

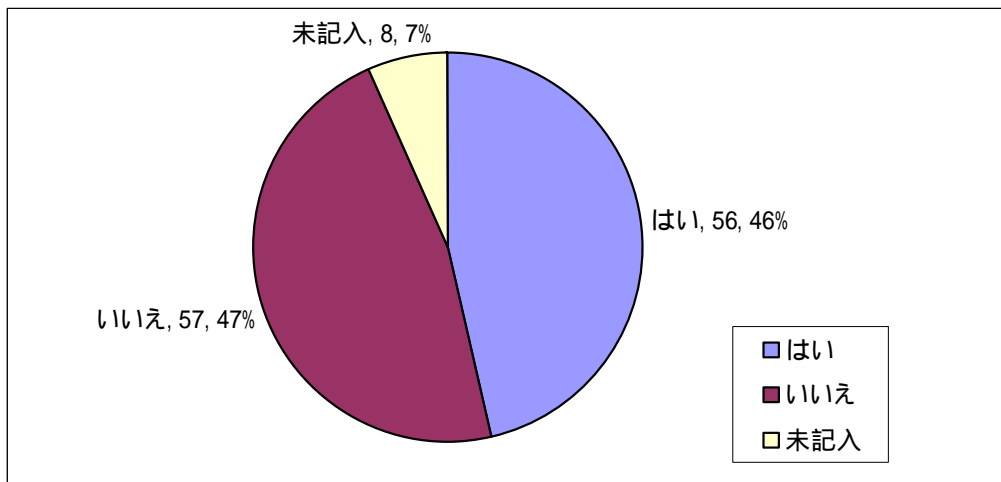


[Q8] プロフィール

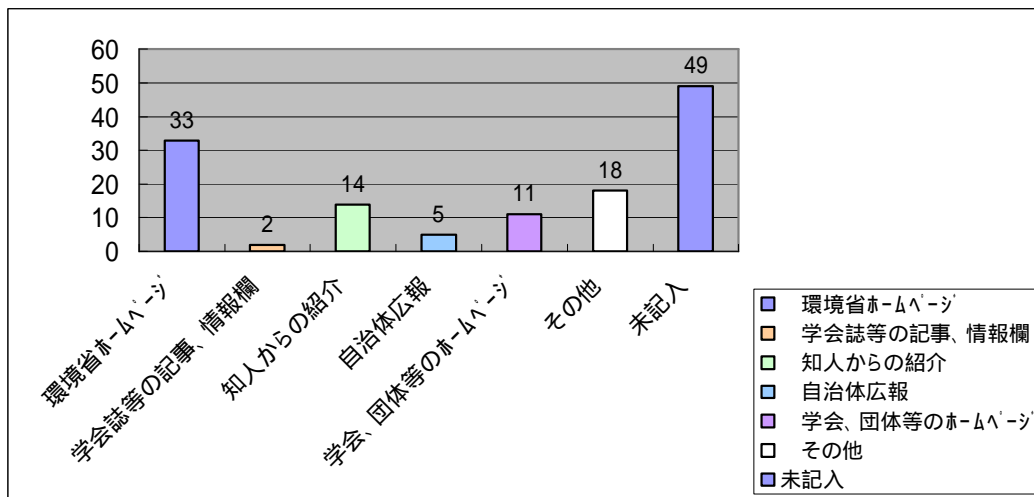


化学物質の環境リスクに関する国際シンポジウム アンケート結果 (12月15日 公開セッション)
 アンケート総数:121

[Q1] 12月14日(日) シンポジウムに参加



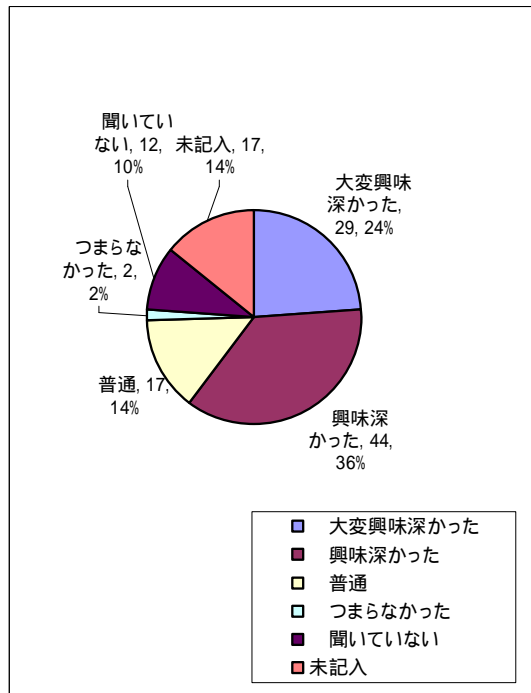
[Q2] 15日開催のセッションを知った媒体(複数回答可)



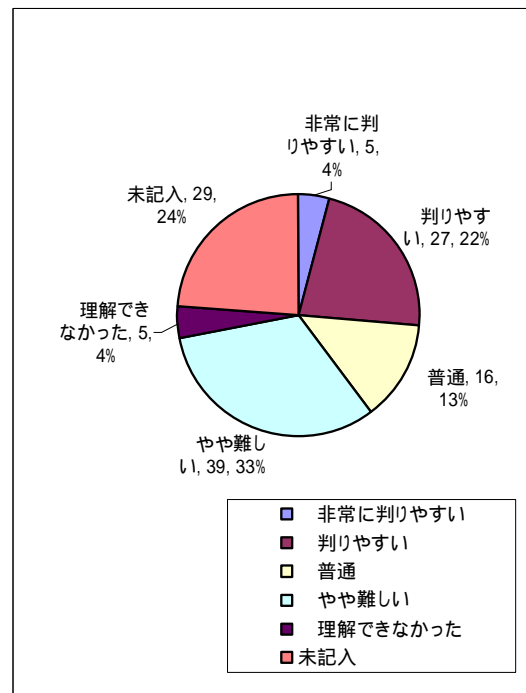
[Q3] 15日のプログラムに参加した感想

「セッション1 化学物質等の環境因子とアレルギーに関する研究の最前線について」

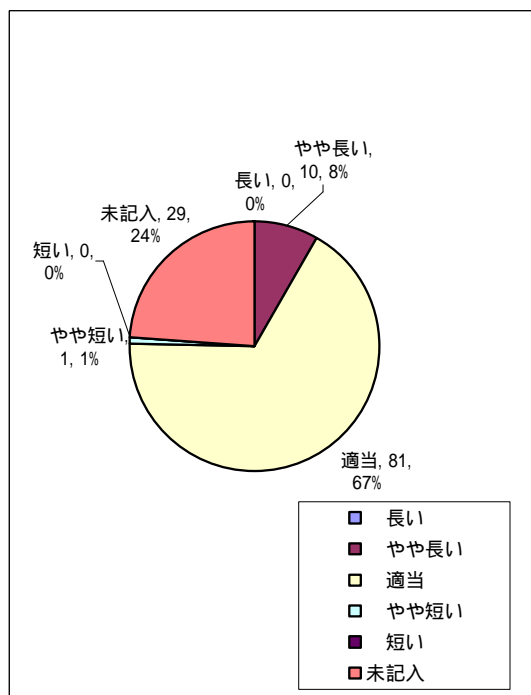
1) 内容



2) 難易度

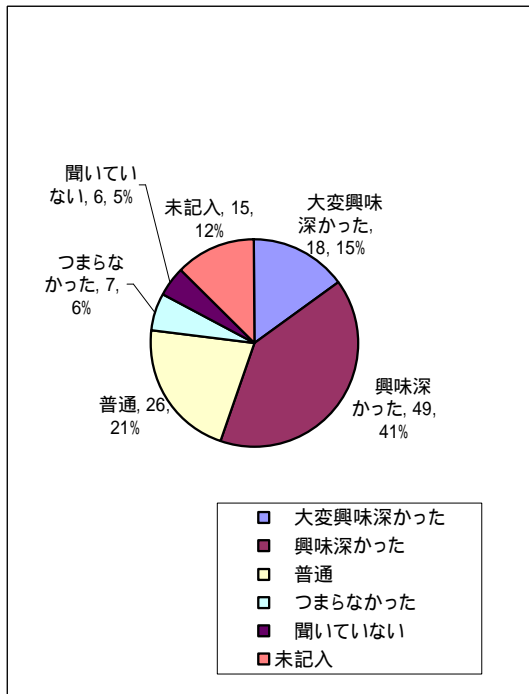


3) 一人あたりの講演時間

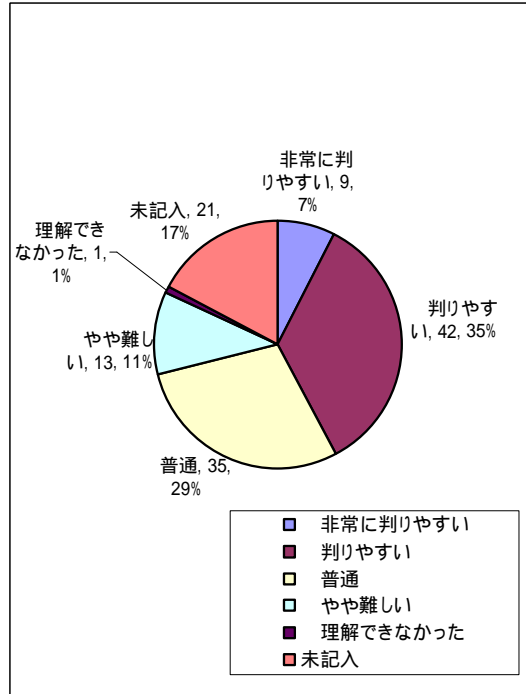


「セッション2 小児環境保健に関する疫学調査 - 世界各国で進められる疫学調査 - 」

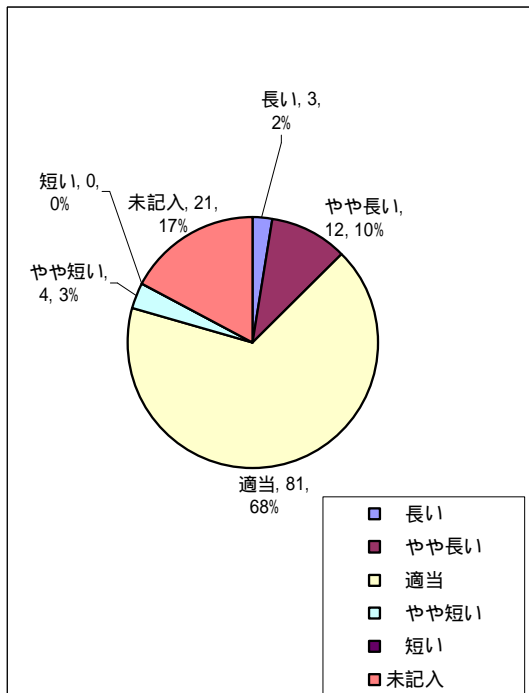
1) 内容



2) 難易度

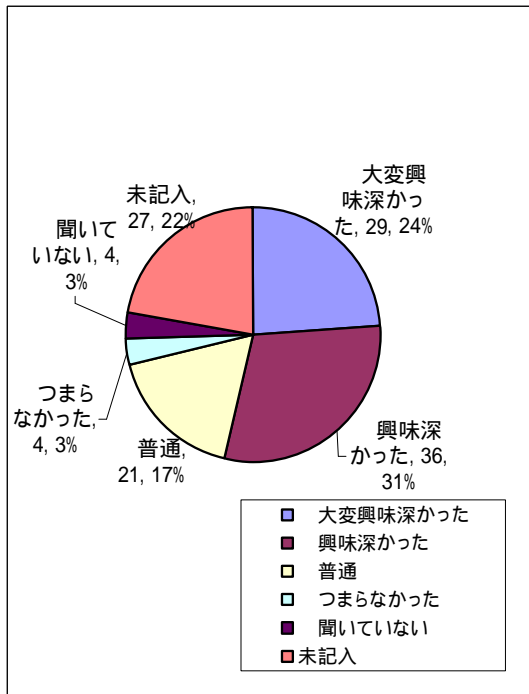


3) 一人あたりの講演時間

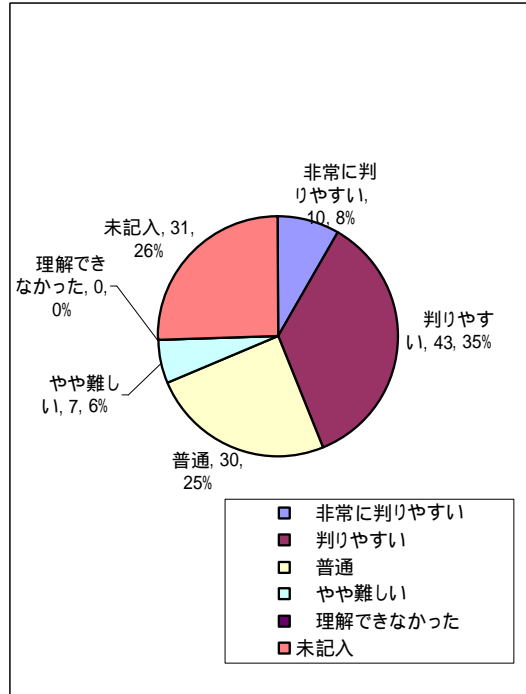


「セッション3 化学物質の内分泌かく乱作用に関する取組と今後の展望について」

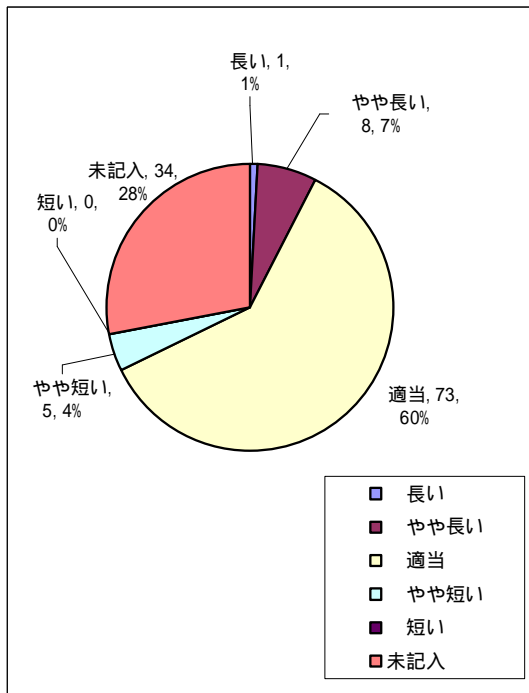
1) 内容



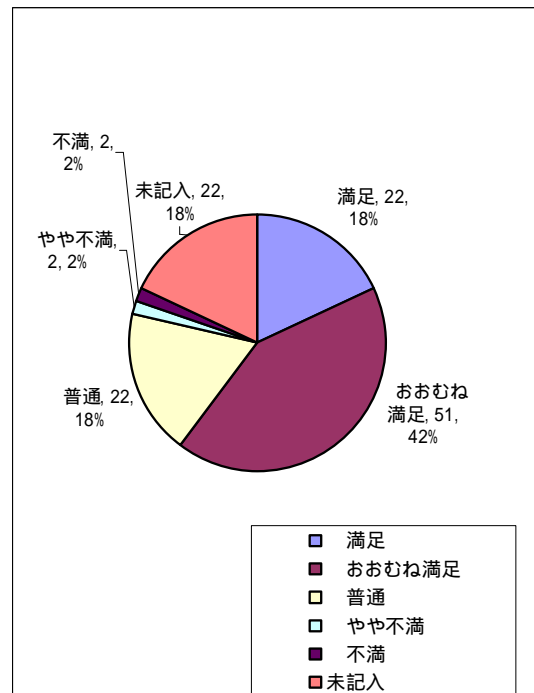
2) 難易度



3) 一人あたりの講演時間



セッションに参加して満足されましたか



[Q8] プロフィール

